

これからは、  
もっと楽しい、もっと快適

# キッチン

# 水まわりBOOK



# いちばん好きな 場所になる。

キッチンやバスルーム、

トイレは機能的であってほしいものです。

ですが、毎日大活躍する場所、

みんなで使うスペースだからこそ、

単に快適、便利というだけではちよっともったいない。

どうせなら”そこで過ごす時間がお気に入りの時間”と

いえるようなキッチンやサニタリーを

つくってみませんか。

■そのためには頭を柔らかくしましょう。

住まいづくりには基本があります。

長年のノウハウが生きているので、

後悔しないためにもきちんとおさえておきたいですね。

そのあと、こんどは自由に発想してみることをおすすめします。

だめかな、とあきらめていたことが、

意外と簡単に実現できることもありますからね。

■技術の進歩の助けもしっかり借りましょう。

もともとキッチンやサニタリーは

設備機器の選択が重要な場所ですが、

最近ほとんどに便利な設備や

うれしい機能が増えていきます。

これらの技術を上手に生かして、

賢く楽しいスペースづくりをしたいですね。

Index

どんな  
キッチンに  
したいか、  
すぐに  
言えますか。

3

機能なくして、  
キッチンなし！

5

キッチン+α。

7

いま、  
いちばん  
ホットな  
スペース！?

9

サニタリーを  
陽のあたる  
場所へ。

11

人にやさしい  
サニタリー  
スペース。

13

# どんなキッチンにしたいか、 すぐに言えますか。

キッチン、といっても、実際にはダイニングやリビングルームまで含んで考えるほうが自然でしょう。調理し、食事し、くつろぐ。そういう一連の流れを頭におきながら、どんなキッチンにしたいか考えましょう。



カウンターと垂れ壁で仕切ったセミオープン型キッチン。ダイニングから調理台を隠しつつ、会話は自由ができます。（明石：一条工務店）

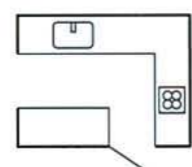


放感のあるオープン型のキッチン。こんなキッチンなら家族みんなで料理したくなるかもしれません。片付け上手にもなれそうです。

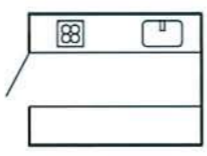
## まずは、家族と キッチンの関係を考える。

みんなでワイワイお料理したいのか、集中してやりたいのか、あるいは奥様だけが料理するのか、家族もお手伝いするのか。さらに、お料理はしなくても、トースターやコーヒーメーカーなどがキッチンにあれば、家族の出入りが発生します。いずれにしても、キッチンのスタイルをどうするかは、家族全員の問題です。どんなコミュニケーションをとりたいのか、どんな暮らしをしたいのか、一度真剣に話し合うのもいいですね。

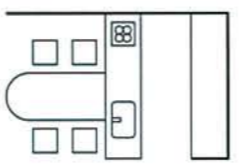
## キッチンのスタイル



**〈セミオープン型〉**  
キッチンとダイニングを食器棚やパーテーションなどで一部仕切っているタイプ。同じ空間にいる雰囲気を感じながら、一部隠しておけるため安心です。



**〈クローズド型〉**  
料理に専念したい方に適しています。リビングなど他のスペースからの視線が遮られるため、ふいふの来客のときもあわてずすみずみです。調理時の煙や臭い、音なども気になりません。ダイニング側に小さな開口部を設ければ家族とのコミュニケーションもできます。



**〈オープン型〉**  
キッチンとダイニングが同一空間にあるタイプ。家族が調理したり、調理しながら家族との会話を楽しみたい場合に適しています。また空間が広く感じられるのも魅力です。ただし、つねに人の目に入りますから、片づけや収納の工夫も大切。ダイニングとのインテリアの調和にも配慮したいものです。



オープン型の場合は、調理の煙や臭いがダイニングやリビングへ流れこまないように気をつける必要があります。コンロや窓などの位置もよく考えましょう。また、吸力は換気能力の高いものが、静音性も重要です。



## そのキッチン、 どこに通じていますか？

どんなスペースでもそうですが、キッチンの場合も、他のスペースとのつながりを考えておきたいですね。ダイニング、リビングルームは当然として、それ以外にも、家事全体の動線として家事室や玄関、勝手口とのつながりがあります。あるいは、水まわりグループとしてのバスルームやトイレとの関係。また、バルコニーや庭とつながっていればビクニック気分も味わえるかもしれません。ふだんの暮らしぶりや、夢に合わせて考えましょう。



季節やお天気のいいときには、外で食事するなんて映画のワンシーンみたいで憧れますね。キッチンを考えるときは、キッチンだけで考えるより、他のスペースとつなげて考えると夢が広がりますね。（千里：旭化成ヘーベルハウス）

## 「時間」も 条件に入れてみる。

たとえば、将来、高齢になっても使いやすいか、家族が少なくなったり、逆に増えたりしたときにどうするか。そんな将来のこともちよつぱり考えておいてもいいかもしれません。



座ったままでお料理ができるシステム・キッチンも登場しています。また、背の低い子供が乗ってちょうどいい高さになるステップつきのタイプもあります。このような誰にでも使いやすいユニバーサルデザインは、キッチンのようなみんなが使う場所ほど有効ですね。

## 基本の基本 チェックリスト

- 家族は何人？
- お料理のスタイルは？  
ひとり？ みんなで？
- どんな設備がほしい？
- モノが多い？ 少ない？
- お客さまはよく来る？
- いまのキッチンへの不満は？

住まいづくりの中でも、  
キッチンは夢がふくらむスペースのひとつです。  
それだけに、家族みんなの意見や希望が百出して、  
まとめるのはたいへんかも。  
でも、こんな楽しい悩みもありませんね！



ここにあるのはキッチンの代表的なレイアウトですが、これにこだわる必要はありません。それぞれのライフスタイルにあわせて、暮らしの数だけレイアウトはあります。



ビルドインタイプの食器洗い乾燥機。食器洗い乾燥機にはいろんなタイプや大きさがああります。家族の人数やよく使う食器の形状、お鍋など洗うかどうかなどを考えて選びましょう。では、食器洗いは機械にまかせて、ゆっくりしましょうか。

ゴミ分別用のリサイクルボックス。このタイプは使わないときはシンクの下に収納できるので置き場所に困りません。また、家庭用生ゴミ処理機も、コンパウトでキッチンにおけるタイプが登場しています。

お料理は好きでも後片付けはどうもという人、多いですよ。いま販売数が伸びている電化製品に、食器洗い乾燥機があります。便利なのに、手洗いよりも衛生的、しかも節水や節洗剤にもなるというのですからうれいですね。ゴミ捨ても、分別用ボックスがあると苦になりません。また、調理台の上や、壁面などのお手入れを考えると、素材にも気を配りたいですね。お手入れが楽だとキッチンをついても美しく保てますよ。

〈調理〉  
加熱機器もガスか電気か選べるようになりました。調理のスタイルやお手入れ、安全性などを考えて選びましょう。

〈収納〉  
快適なキッチンづくりにあきらめは禁物です。いまではいろんな先進的な設備機器が助けてくれますよ。

〈後片付け、お手入れ〉  
お料理は好きでも後片付けはどうもという人、多いですよ。いま販売数が伸びている電化製品に、食器洗い乾燥機があります。便利なのに、手洗いよりも衛生的、しかも節水や節洗剤にもなるというのですからうれいですね。ゴミ捨ても、分別用ボックスがあると苦になりません。また、調理台の上や、壁面などのお手入れを考えると、素材にも気を配りたいですね。お手入れが楽だとキッチンをついても美しく保てますよ。



照明も忘れないで。

キッチンの照明の基本は、全体照明と部分照明の組み合わせです。包丁などの刃物を扱う場所、火を使うコンロまわりなどには安全のためにも十分な明かりが必要です。また、作業の邪魔にならないかどうかも要チェックですね。

〈ストック〉  
缶詰や調味料、飲料など、ストック専用のケースがついたシステムキッチンもあります。これなら使い忘れが防げそうですね。長期ストックには床下収納などもいいかもしれません。食器や調理道具だけでなく、食材のストックスペースも忘れずに考えたいですね。



調理台の扉や幅木の部分など、ちょっとした場所に隠れた収納スペースがついているシステムキッチンが増えてきました。写真は吊り戸棚の下についてのタイプ。小物の収納・取り出しに便利そうです。

〈収納〉  
収納というと、とかくスペースを確保することに必死になりますが、ポイントは何れだけ入るのではなく、どれだけ取り出しやすいかだといわれています。よく使うものこそそうでないものとか、コンロのそばにお鍋類というように関係のあるもの同士を近くに配置するとか、工夫の余地はたくさんあります。また、電化製品を収納するスペースもあると調理台の上をすっきり片付けることもできます。収納も量から使いやすさへ！



アイランド型レイアウト。つくるのも、食べるもの、みんないっしょ。そんなにぎやかなキッチンになりそうです。(明石:ウイザースホーム)



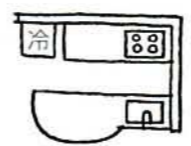
1列型レイアウト。コンパクトでシンプルなレイアウトなので、色で楽しむのも素敵ですね。

機能なくして、キッチンなし！

どんなに素敵に見えるキッチンでも、使いにくければ台無し。というわけで、ここだけは気をつけたいというポイントを整理してみました。

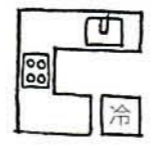
▶ペニンシュラ型

1列型、11列型、L字型、U字型の一部が半島(ペニンシュラ)のように突き出したレイアウト。半島部分にテーブル機能をもたせ、ダイニングと対面させるのが一般的で、オープン型キッチンに向いています。



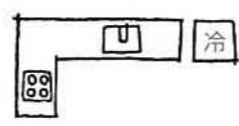
▶U字型

作業スペースや収納スペースがもっとも広くとれるタイプ。動線も短絡でき、コンパクトなプランが可能です。U字の内側の間隔は、1人で使用するなら900~1200mm程度、2人以上で使用するなら、1200~1500mm程度あるといいでしょう。



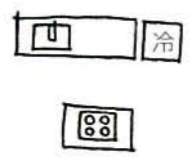
▶L字型

作業スペースを広くとれ、しかも動線を短絡できるレイアウト。複数人での作業にも楽に入ります。シンクとコンロをL字の両側に振り分けると使いやすくなります。L字のコーナー部分の下はデッドスペースになりやすいので、回転棚を設置するなど工夫が必要です。



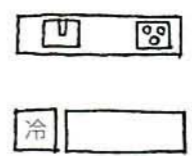
▶アイランド型

調理台の一部を島のように独立させるタイプ。シンクやコンロを配置したり、調理台や配膳台にするなどさまざまな使用方法が考えられます。四方から使えるので多人数で作業する場合に適しています。



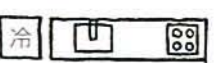
▶11列型

体の向きを変えるだけ別の作業ができるというメリットがあります。シンクとコンロを並べてもいいし、オープン型、セミオープン型のキッチンの場合は、ダイニング側にシンク、壁側にコンロを配置すると排煙や後片付けのときなどに便利です。2本のラインの間隔は最低75cm、1m20cmあれば2人での作業や物の出し入れもラクに入ります。



▶1列型

シンク、調理台、コンロを一直線に配したタイプ。作業効率のいいレイアウトですが、あまり横に長くなると使いにくくなります。使いやすい長さは3m60cmくらいまでだとされています。



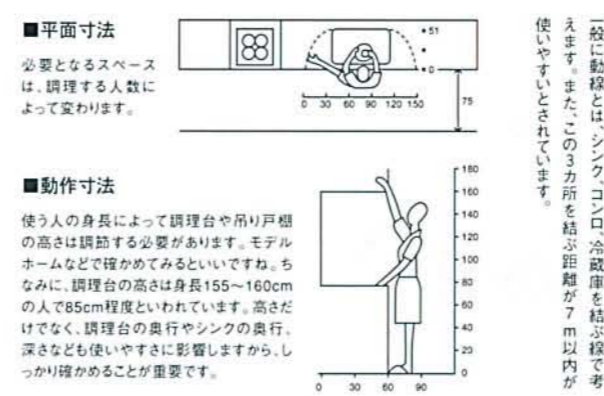
スムーズな作業を実現する。

キッチンはお料理するだけのスペースではありません。調理、盛り付け、後片付け、食材などのストック、食器や調理道具の収納と、さまざまな役割を担っています。これらの作業がスムーズに行えるかどうか、快適なキッチンの最低限の条件といえるでしょう。

動線:キッチン・レイアウトを考える。

一連の作業をするのにどのよう動くか、つまり動線を考えて調理台をレイアウトする必要があります。無駄な動きが多いと、お料理するだけで疲れてしまいますよ。

〈キッチンの広さ〉



たくさんモデルホームを見ると迷うのでは、と心配(?)される方もいらっしゃると思いますが、実際にはたくさん見るほど、自分は何がしたいのか、欲しいのかがわかってくるものです。



## キッチン 家のまん中に!

キッチン、ダイニング、リビングが一体化したレイアウトは珍しくありませんが、最近では「キッチンがリビング」といういい意味での住まいの生まれが生まれています。三度の食事のときだけでなく、お茶を飲んだりおやつを食べたりと、結局一日中キッチンは使われ、みんなが集まってくる。それならいっそ「キッチンがリビング」でもいいですよね。常識に捕われなくて、ほんとうに自分たちらしいキッチンを考えてみてください。ただし、実際につくる場合は、機能性や快適性もお忘れなく!

## 省エネと創エネ。

電気、ガス、水道。キッチン(そしてバスルーム)は、住まいの中でもエネルギーを消費するスペースです。家計からいっても、環境保護の視点から考えても、これからの時代、各家庭での省エネは不可欠です。すでにご紹介した節水や節電などに威力を発揮する食器洗い乾燥機をはじめ、機械化することによって省エネになるものも少なくありません。水栓金具などにも節水に役立つものがあります。また、照明も、節電タイプの照明器具を使う手もありますし、自然光をたっぷり取り入れる設計なら、昼間の照明はいらなくなるかもしれませんね。また、オール電化やオールガスにすることで節約できる場合もありますから、研究してみてください。



こちらはフットスイッチで吐水・止水できるタイプ。これらの水栓はユニバーサルデザインの考え方でつくられています。この誰にでもやさしいデザイン。上手に取り入れると省エネにも役立ちそうですね。

また、省エネがエネルギーをできるだけ使わないこととしたら、自分たちで使うエネルギーは自分たちでつくってしまえ、というのが創エネ。一般家庭用太陽光発電も利用しやすい価格になってきているようですから、考えてみるというですね。

## キッチン+α。

これからのキッチンを考えるときには、キッチンとしての機能以外の機能を+αしてみてください。思わぬ素敵なキッチンが誕生するかもしれませんよ。



自然光がふれるキッチン。植物も人もすくすく育ちそう。(千里:ダイワハウス)



どこまでがキッチンで、どこからリビング?もうそんなこと気になりませんね。(千里:三洋ホームズ)

## 光、風、音楽、映像。

キッチンの居心地がよくなければなるほど、そこで過ごす時間は長くなります。キッチンにプラントラをおいてハーブを育てている方がいらっしゃるかもしれませんが、もしそんな趣味があるなら、設計段階で組み込んでもらおうというかもしれません。植物のためにも、そこで作業する人のためにも、自然の光や風がたっぷり入るようになっていけば、心身ともに健康になれるでしょう。敷地の都合で窓がとれない場合には、光ファイバーで太陽光を取り入れる、という発想もあるようです。まるでSF映画のようですね。



開け閉めの音が気にならない密サッシと、水が当たる音が静かなシンク。これなら作業しながら音楽を聴いても大丈夫。もちろん、音楽だけでなく、会話のジャマにもなりません。夜遅くでも使いやすい(?)ですね。



いつも使っているミュージックプレイヤーをつなぐだけ。お気に入りの音楽を聴くのもよし、語学の勉強にもよさそうですね。お客さまにちょっと自慢したくなりますね。

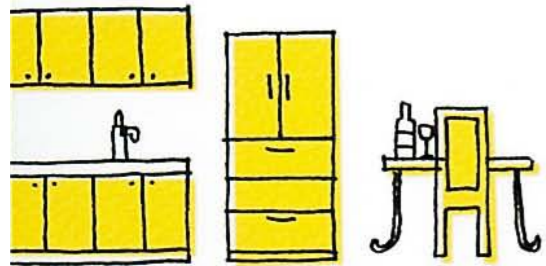
さて、音楽や映画をキッチンで楽しみたいという方も少なくないと思うのですが、といってテレビやCDデッキなどを持ち込むのは配線なども面倒です。キッチンに組み込める設備を利用すればすっきり使えて作業のジャマにもなりません。しかも、ちよつとかつこよかつたりして、これですますキッチンに時間を長く取りたいですね。

## 夢のキッチンブックをつくりませんか。

ノートを一冊用意して、どんなキッチンがいいか、どんな設備が欲しいかを書いたり、雑誌や広告などから気に入った写真や記事を切り抜いてスクラップしていく。そんな自分たちだけの夢のキッチンブックをつくるというのはどうでしょう。最初はぼんやりした夢がだんだん明確なカタチを持つようになり、実際の住まいづくりにもきっと役立ちますよ。

## 要るものと要らないもの。

せっかく新しい住まいを建てるのですから、いままでの不満を解消し、夢を実現したいものです。そのためには自分たちがどうしたいのかを具体的に思い描いておくことが大切。しかし! 実際には敷地や予算などさまざまな条件があります。あれもこれもとリストアップしたあとは、こんどはほんとうにそれが必要なのか、ほんとうに欲しいのか、もう一度考え直すことが肝要です(検証するためにも夢のリストづくりは重要です)。とくにキッチンやバスルームは設備機器が多いのでよく見直すようにしましょう。



バスルーム、トイレというものすごく日常的な空間を、ちょっとしたアイデアで非日常的な空間に変えることができます。夜、心身ともにリセットするために、朝、元気に一日をはじめるために、こだわりのサニタリースペースをつくってみませんか。



毎日お世話になるのに、  
どうも軽視されがちだったバスルームやトイレなどの  
サニタリースペースですが、  
ここに来て俄然注目が集まっています。

いま、いちばん  
ホットなスペース!?



バスルーム天井から迫力のサウンドが降ってきます。手持ちのオーディオ機器をつなぐだけで、バスタイムにもいい音で音楽が楽しめます。カラオケの練習もできそうですね。



半身浴やサウナでゆっくりしたいけれど、すぐに退屈しちゃって…。でも、映画やテレビが見られれば、そんな悩みも解消。



幻想的な色のお湯に包まれてリラックス。これ、入浴剤の色ではありません。バスタブの中を色鮮やかに照明で照らしているのです。さまざまな色に変えることもできます。浴で体の疲れをとり、色で心も癒される。バスタイムが待ち遠しくなりそうです。



照明に「ヒーリングライト」を使用したタイプ。心を落ち着かせる作用のある淡いブルーの光が、1日の疲れやストレスをやさしく癒してくれます。探りバーにも青い光のLEDを採用。幻想的な雰囲気の中、ゆったりしたバスタイムが楽しめます。

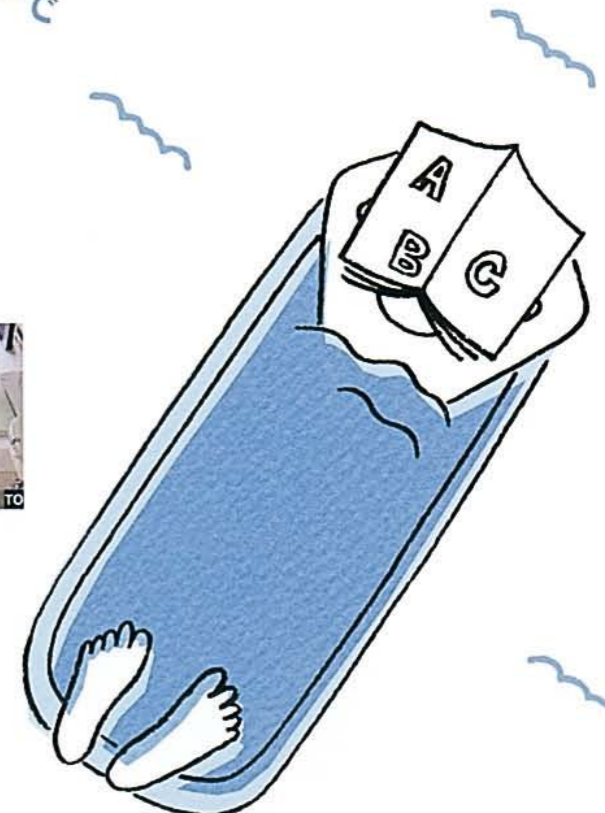
お風呂としての機能を高めて癒されるのもいいですが、お風呂っぽくない機能を付加して癒されるというのはいかがでしょうか。たとえば、バスルームで映画を見る、音楽を聴く、あるいは宇宙旅行をする(？)。テレビやオーディオ設備を設置するのはもとより、照明やインテリアでも遊んでしまおうというわけです。

### バスルームで楽しむ。

健康にいい入浴方法に「半身浴」がありますが、半身浴に便利なベンチのついたバスタブも開発されています。また、魔法瓶のようにお湯を冷まさない機能を持ったバスタブなら、家族の入浴時間がバラバラでも追い焚き回数が減らせるなど経済的ですね。朝まで温かいので朝風呂が楽しめるのもいわれています。

### バスルームで美しくなる。

いま、リフォームでも大人気なのがミストバスですね。入浴しながら癒されて、しかも美しくなれるというので、うれしい限りです。ここ数年、温泉ブームが続いているように、美と健康のためにお風呂の効用が見直されています。ジャグジーやサウナなども一般の家庭用に取り入れやすいタイプが多様多様に登場しています。自分専用のエステティックサロンをつくるようなつもりで考えてもいいですね。



トイレでも音楽が楽しめます。また、便座に座ると自動で心地いい香りがただよう仕組みになっているタイプもあります。

おトイレを図書館にしたり、水槽をおいて水族館にしたり、コレクションを並べて博物館にしたり。ちょっとスペース的にゆとりをもたせたり、棚を設置しておくといいですね。おトイレのプランにも気を抜かないでください!

小さい部屋、としてのトイレ。ないと困るけれど、あればいい、という感じなのがトイレ。でも、トイレまわりの設備はとっても進化しています。となると、もっと積極的に使えるスペースになるのではないのでしょうか。実際、トイレを自分のお城にしている方も少なくないようです。こじんまりとした広さが、逆に心地いいんですよ。

### 小さな部屋、としてのトイレ。



お風呂の人気アイテムといえばジャグジー。水流が体をマッサージし、疲れをほくしてくれます。最近では、水流の強弱や、水流が出てくる箇所を選べる便利なタイプもあります。



こちらはスチームミストサウナ。こんなサウナなら気軽に楽しめますね。ミストじゃもたらないわーという方には、水流の強さでマッサージができるシャワーはいかがですか。温泉の打たせ湯感覚で楽しめます。

# サニタリーを 陽のあたる場所へ。

楽しいアイデアがいっぱいのバスルームやトイレですが、その楽しさを存分に味わうためには、場所や数も重要なポイントになります。

## どこにおくか、 いくつおくか。

水まわりはまとめて設置する、は設計の便宜上からは基本ですが、家族のライフスタイルに合わせて、多様な設置のパターンが採用されるようになっていきます。たとえば二世帯住宅や3階建て住宅なら、2カ所以上のサニタリースペースがあった方が望ましいでしょう。また、高齢者の方なら、トイレへの行きやすさを最大限に考慮し、思いきってベッドルームの中に設置するという手もあります。お風呂が好きで、徹底的にこだわりたいというのなら、屋外とのつながりを考慮して、露天風呂気分を味わうのもいいかもしれません。

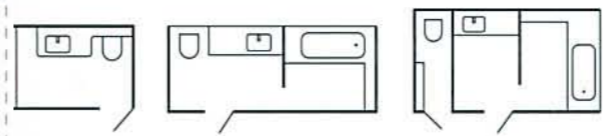


ベッドルームにバスルーム、トイレを併設。家族でお風呂時間を調節することなく設置したバスルーム。バルコニーに通じているラックスバスタイムが楽しめます。大人にはうれしいタイプですね。高齢者の方には夜でもトイレが近くて他の家族への配慮もいらず、気楽で便利です。

## バス、洗面、トイレを どう組み合わせるか。

サニタリースペースの数や場所が自由度を増したのに伴い、そのレイアウトも多様になってきました。従来の、お風呂場、洗面所、トイレがそれぞれ独立したタイプから、ホテルのバスルームのように一体になったものまで、レイアウトの幅も広がっています。家族の人数や使い方、またどこに設置するかなどでそれぞれ選ぶといいでしょう。

### サニタリースペースのレイアウト



**〈インルーム型〉** 浴槽のみを洗面、トイレが別のタイプ。  
**〈ジョイント型〉** 浴室と洗面をジョイント、洗面とトイレをジョイント、浴室とトイレをジョイントの3タイプ。スペースをコンパクトにおさめられます。  
**〈独立型〉** 浴室、洗面、トイレそれぞれが独立。すべてが別々に使えるというメリットがあります。



屋上の露天風呂。もうわざわざリゾートまで出かける必要はなさそうです。このようなバスルームは、一般的なバスとは別に、セカンドバスとして考えるといいでしょう。(千里:ダイワハウス)



洋風バスを使用したプラン。洗い場が不要なのでコンパクトにおさめられます。使い慣れている人には快適かもしれません。(明石:ダイワハウス)



トイレは見えていませんが、トイレと洗面をジョイントさせたプランです。洗面スペースと浴室がガラスで仕切られているので、広く爽やかに見えます。ただし、誰かがお風呂に入っている間、他の家族が洗面スペースを使えないという状態も出てきますから、家族構成や洗面スペースの数などを考えて決定しましょう。(明石:積水ハウス)

キッチンもそうですが、バスルームが家族のコミュニケーションの場になっているといいます。あらたまって話をするより、料理をつくりながらとか、お風呂に入りながらの方が話がしやすいのですね。



サニタリースペースというよりはカフェのようなイメージ。(明石:旭化成ヘーベルハウス)



シンプルで、モダンで、アート? 住む人の個性が感じられます。



すっきり洗練されたデザイン。安全のためのバーまでおしゃれですね。

## デザインを 楽しむ。

海辺のリゾート風、山小屋風、純和風、洗練されたイタリアンデザイン風、明るいカリフォルニア風、落ち着いたヨーロッパ風、アートなニューヨーク風などなど、サニタリースペースもデザインやイメージで楽しむ時代です(もちろん、住まい全体との調和が大切なのはいうまでもありません)。

# 人にやさしい サニタリースペース。

サニタリースペースがほんとうに癒しの空間であるためには、しっかりした機能も大切です。家族みんなが快適に過ごせるように、それぞれの目線に立つてもう一度見直してみましょう。



## 広さより、 安全性を優先したい。

広いバスルームは憧れですが、サニタリースペースでは安全性にも十分に配慮したいものです。段差をなくす、浴槽に出入りしやすい設計にする、パーを取り付けるなどという配慮があれば、高齢者の方だけでなく安心です。最近よく耳にするユニバーサルデザインもバリアフリーを発展させた考え方で、すべての人が快適に利用できるような製品や空間などをデザインしようというものです。これからのサニタリースペースに取り入れたい考え方でですね。



湯舟につかると心臓への負担が気になる方にはこんなシャワーはどうでしょう。ミストのシャワーが勢いよく出るので、湯舟につかったときと同じように体が温まります。

## バスルームの安心設計

ゆつくり癒されたいはずのお風呂ですが、少しのことでもストレスとなる場合があります。たとえば床。水で滑りやすくなると、転倒しやすくなりま すね。また、高さのある浴槽は、またぐのにひと苦 労。こういった問題はなにも高齢者や子供にだけ 辛いというものではありません。こうしたストレス を解消するために、水引きの早い床材や、手すり など積極的に取り入れたいですね。また寒い 冬場などでは、リビング、脱衣所、バスルーム、それ ぞれの温度差がはげしく、体に負担をかけてし まうこともありました。脱衣室と浴室を同時 にあたためる暖房機などを取り入れて、快適な 温度を保つようにしましょう。



乾きも早く、すべりにくい床。



天井取り付けタイプの換気暖房乾燥機。冬、暖房しておけば、室温変化による急激な血 圧変化や湯あたりを防げます。また、乾燥機 として衣類乾燥にも使えますし、浴室をしっ かり乾燥させるので防カビにも役立ちます。

## 防犯もお忘れなく。

窓を大きくとって明るいキッチンやサニタリーにしたいものですが、そうすると防犯にも配慮してください。格子をつけるだけでもかなり効果があるそうです。

## バスルームの チェックポイント

- すべりにくいこと
- そうじがしやすいこと
- 浴槽への出入りがしやすい
- 洗面器置き場や水栓が 楽な姿勢で使えること
- 十分な照明があること
- 十分な換気ができること
- 高齢者や子供への配慮があること

## お掃除を楽に。

きれいなサニタリースペースは本当に気持ちのいいもの。でも、汚れやすいのも事実。常に清潔に保つておくためには、結構な手間がかかります。最近では、便器周りの汚れを防止するために、男性も座ったままで用を足せる仕様のものや、オート洗浄してくれるタイプの物もあります。サニタリー全般にデザ インがシンプルになり、掃除のしやすさが考慮 されているようです。



ふちがなくなってお手入れが簡単になったタイプ。



手すりがちょっとあるだけで安心感がぐっとアップします。



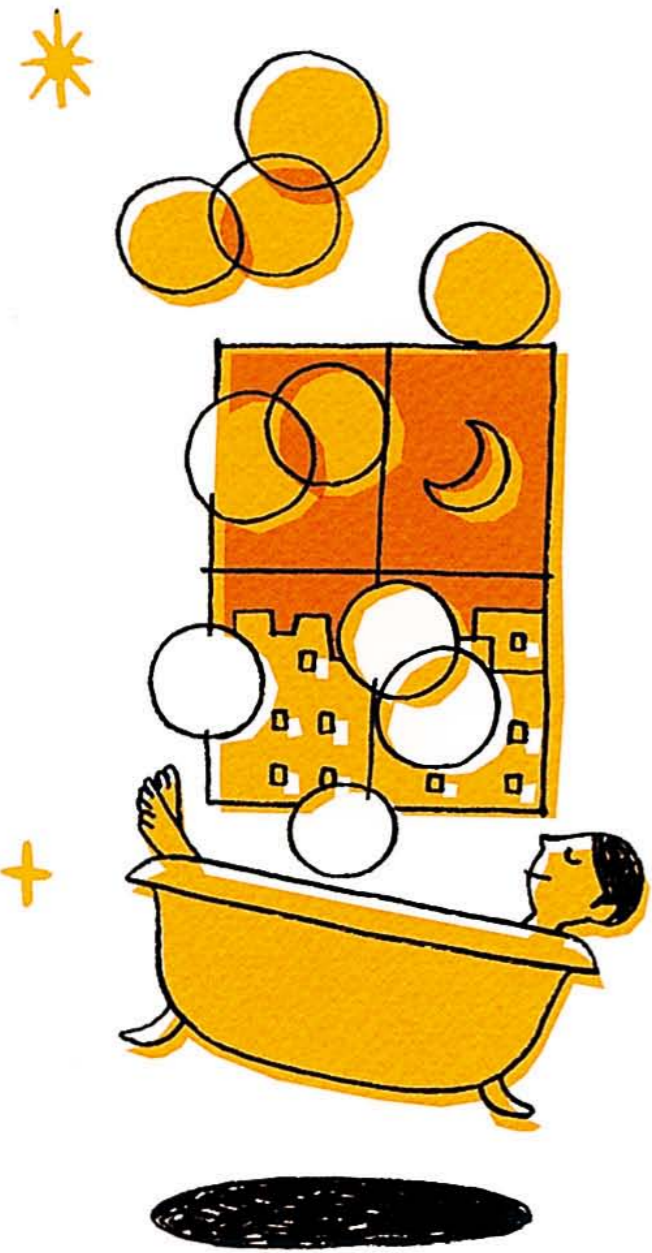
レバー操作だけで簡単に高さが変えられます。イスに座った状態でも最適な高さが選べます。



便座の高さが変わるタイプ。立ったり座ったりという動作を補助してくれます。

## トイレ、洗面所の安心設計

トイレや洗面所も、バスルーム同様、ちよつとした配慮で使いやすさはぐんと違っ てきます。便器や洗面台も多種多様なタイプが出ていますので、じっくり研究してください。



世界でいちばん好きな場所。

そんなふうに見えるキッチンやバスルームができるといいですね。

そのためにも、たっぷり夢を見て、しっかりチェックしましょう。